



「お稚児さん」平成2年（1990年）
山門建立落慶法要に合わせて募集。約100名もの
お稚児さんが集まり、法要を盛り上げた。



令和六年元旦

謹んで新春のお祝詞を
申し上げます

真宗大谷派

願興寺だより

第 88 号

2024年（令和6年）

1月1日発行

発行者

願興寺

長岡市関原町1丁目1019

〒940-2035

TEL 0258-46-2316

FAX 0258-46-7499

<https://gankouji.org/>



巻頭言

清沢満之と井上円了

願興寺衆徒 太田 修

明治維新はキリスト教を許
可すると同時に仏教を弾圧し
神道（天皇教）を人々にすす
めた。この仏教の大混乱を救
った二人はいずれも浄土真宗
の僧侶であった。清沢は尾張
出身で、東京大学に学び真宗
寺務改革を出し近代化をすす
め、真宗を学ぶ大学（大谷大

学）を開学させた。それは「
親鸞に帰る」こと、自己とは
何か、生きるとは何かという
「仏教本来の道」を回復する
ことをめざした。

一方、井上円了は越後（越
路町）出身で京都の大谷派の
学校から東京大学で西洋哲学
を学んだ。井上は仏教哲学と
西洋哲学を融和させる学問を
めざし、廃仏毀釈令で失業し
た僧侶に教育職を得るための
学校（哲学館）を開設した。
のちの東洋大学。

二人とも苦難や弾圧にもあつ
たが近代社会にも仏教が生き
残り、仏教勢力をもち返せた。
他の宗派も真宗のように、僧
の結婚や世襲を認め信徒の拡
大を求めた。

やがてこれらの努力が実って
「教部省」を廃止することが
認められ、廃仏毀釈運動は止
まった。やはり、日本の宗教は
仏教であった。



報告

願興寺マルシェ

(10月22日 開催)

「願興寺開基六〇〇年・親鸞聖人七五〇回御遠忌法要」の記念イベントとして、十月二十二日に「願興寺マルシェ」が開催されました。



マルシェは個人単位の小さなお店が集まって開かれるイベントです。それぞれが趣味や得意分野を生かして作られたものの販売や、ハンドマッサージや子育てカウンセリングなどお店も様々です。

何より出店者とお客さんの距離が近く、交流の場として盛んで、公共施設などでも開催されています。また最近ではお寺を会場としたマルシェも増えてきて、願興寺では今回、初めての試みとして開催されました。



当日の朝は、小雨が降っている状態で始まりましたが、段々と晴れてきて、それに伴い若い方を中心に来場者が増えて、お昼頃には駐車場も満車で、庫裏や本堂には大勢の人が行き来していました。

特に親子連れが目立ち、お寺の中を走り回ったり、様々なお店に目を輝かせている子どもたちの姿がとても印象的でした。

アンケートにも「近所に入りますが、初めてお寺に入りました」というご意見も多く、新たな交流の場として大いに盛り上がりました。



次回の開催は未定ですが、「願興寺マルシェ」が「新たなつながり」を生み出していく場になればと願います。

(報告 高橋深恵)

報告

永代経法要



すっかり秋も深まった十一月十二日、恒例の永代経法要が勤まりました。今年最後の法要ということもあり、約五十名の方がお参りをされました。勤行の後は専徳寺（刈羽村赤田町）住職の多田誓師よりご法話をいただきました。



多田誓師からは「真宗の利益 現生十種の利益」というお話をいただき、次のように聴聞しました。

私たちは誰もが大切な人を亡くしているのですが、永代経法要とはそうした大切な人を偲びつつご縁を通して自身を見つめ直し、いずれはお浄土に還ることになるわが身が後悔のない人生だったと決しておなしい人生なんかじやなかったと振り返ることができるように、お念仏の教えに出会わせていただくことなのです。

京都本山の親鸞聖人のご木造の姿を思い浮かべてみてください。念珠を持つ両手は合掌ではなく、念珠を握り込んでいます。これは阿弥陀さまのお念仏についてお話をしている姿であり、ご門徒の皆さんに聴聞してほしいとの現れです。



真宗の利益は、世間でよく言われる現世利益ではなく、現生すなわち現実生活の利益を意味します。

『教行信証』には、壊れない金剛石のような真の心を、法話繰り返し聴いて得ることで五趣・八難の道を越えて、必ず現実生活に十種の益を獲る、とあります。

五趣とは、自らの業である身（行動）口（発することば）意（心）によっておもむく五つの道、地獄・餓鬼・畜生・人間・天を示します。いつも気にかかって逃れられない苦しみ（地獄）、いつも何かを欲しがっている（畜生）、いつもへつらい媚びている

（畜生）、いつも考え過ぎていく（人間）、容姿・能力・富を授かっても最期は衰える（天）。

八難とは仏を見ず仏法が聞けない境界の八種をいい、仏法を聴く意味が説かれます。



「経教は鏡なり」とも言います。鏡では映せない中身、その中身を映すものがお経であり、教えです。教えを聞き続けることが真宗における現実生活の修行であり、生きる意味を見つめ続ける中で現実生活が成り立っていくのです。

（報告 中島美代子）

報告

秋季彼岸・永代供養墓合同法要

去る九月二十四日に秋季彼岸、並びに永代供養墓合同法要が勤まりました。

午前九時半より永代供養墓「清風精舎」にて合同法要が勤まり、関係者約二十名の方がお参りをされました。

その後、本堂にて秋季彼岸法要が勤まり、法要後にピアノとフルートの演奏会が行われ、気候の良さも相まってとても心地よい時間を過ごすことができました。



お寺の環境美化のために清掃奉仕の参加者を募集しています。程よく体を動かして、身も心もリフレッシュしてはいかがでしょうか。またお掃除の後のお茶も格別です。ぜひ皆様のご協力をお願い致します。

【今後の予定】

- ・ 五月十八日（土）
- ・ 六月九日（日）
- ・ 七月二十六日（日）

午前十時～午前十一時

【活動内容】

境内・庫裏などの清掃

内容は天候や参加人数に応じて決定



おくやみ

令和五年七月〜令和五年十一月

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

■七月一日 深沢町

田村公男 七十五歳

■九月三日 関原町

佐藤善司 九十七歳

■七月十二日 上除町

栃倉五男 八十四歳

■九月八日 宝地町

栗田美枝子 七十五歳

■八月一日 三ツ郷屋

高野榮 七十九歳

■九月十六日 関原町

荒木勇一 七十四歳

■八月七日 五反田

山本晴男 七十六歳

■十月一日 山田町

川口量平 八十九歳

■八月九日 高野町

丸山鈴江 六十九歳

■十一月三日 古正寺

神林富次 九十八歳

■八月二十日 関原町

寺塚勝至 九十二歳

■十一月二十八日 陽光台

丸山伸一 七十三歳



【追悼】 田村公男氏を偲んで

願興寺住職 高橋深恵

昨年の七月一日、護持会副

会長・事務局長であった田村公男氏が急逝されました。あまりに突然のことで、私や坊守を始め、多くの方々が驚き、深い悲しみにくれました。

田村氏は若い頃、電化製品の販売会社で営業マンとしてご活躍され、退職後は生まれ育った深沢町の町内会の仕事などに積極的に関わっておられました。

二〇一六年より護持会役員になっていただき、二〇一九年からは事務局長として役員会を引っ張っていただきました。

また推進員として一緒に東本願寺での研修にも参加して、他のお寺の役員さんたちとも積極的に意見を交換し、お寺の行く末を何よりも案じ

て下さいました。

他のお寺がイベントを行なえば自ら視察して「願興寺でもこうした催しをした方がいい」と坊守に提案してくれたこともありました。五月に行われる開基六〇〇年の法要へも役員が一丸となってやっていこうと発破をかけて下さったところでした。住職として未熟な私にとって本当にかげがえない存在でした。

改めて田村氏の在りし日のお姿を偲び、その足跡に敬意を表します。



田村公男氏
法名 願立院釈道公

下半期行事報告

2023年7月～2023年12月

- 7月11日 お経会①
- 16日 清掃奉仕
- 17日 第3回役員会
- 25日 初めてのヨガ教室
お経会②
- 27日 盆参 講師 永寶 卓師
- 8月1日 盆参 講師 佐々木恵一郎師
- 7日 盆参 講師 今泉温資師
- 8日 お経会③
- 13日 盂蘭盆会
- 18日 墓地清掃 (お墓片づけ)
- 22日 お経会④
- 29日 初めてのヨガ教室
- 9月5日 お経会⑤
- 16日 清掃奉仕
- 19日 お経会⑥
- 24日 秋季彼岸・永代供養墓合同法要
- 27日 初めてのヨガ教室
- 10月3日 お経会⑦
- 10日 初めてのヨガ教室
- 16日 清掃奉仕
- 17日 お経会⑧
- 31日 お経会⑨
- 11月12日 永代経法要 講師 多田 誓師
第4回役員会
- 14日 お経会⑩
- 15日 初めてのヨガ教室
- 16日 清掃奉仕
- 12月10日 第5回役員会
- 12日 初めてのヨガ教室
- 16日 清掃奉仕
- 31日 除夜の鐘

上半期行事予定

2024年1月～2024年6月

- 1月1日 修正会
- 2日 年頭法会
- 4日 寺年始
- 23日 ヨガ教室
- 2月2日 前坊守祥月命日
- 4日 会計監査・第1回役員会
- 20日 ヨガ教室
- 3月3日 新旧世話方会議
- 13日 ヨガ教室
- 24日 春季彼岸法要
- 4月23日 ヨガ教室
- 5月14日 ヨガ教室
- 18日 清掃奉仕①
- 26日 願興寺開基600年・
宗祖親鸞聖750回御遠忌法要
- 29日 前坊守祥月命日
- 6月9日 清掃奉仕②
- 11日 ヨガ教室
- 16日 願興寺お茶会





願興寺開基600年

(7)

親鸞聖人750回御遠忌法要

これまでの願興寺をふりかえり これからの願興寺を想像していく出発点とする

—世代を超えて親しまれる、地域に開かれた寺を目指して—



2024年
5月26日(日)

- 9:30 稚児行列 (庭儀)
- 10:00 法話 今泉温資師
- 11:00 願興寺開基600年
親鸞聖人750回御遠忌法要
- 正午 終了予定

*日程は変更することがあります。

百年に一度の大法要が
お勤めされます。
また稚児行列 (庭儀) も
行われ法要を華やかに彩
ります。滅多に遇うこと
のできないご縁ですので、
ぜひお参り下さい。

願興寺開基六〇〇年

親鸞聖人七五〇回御遠忌法要

お稚児さん募集



参加対象

3才から小学生の男女

歩けないお子さまも保護者の抱っこで参加できます
願興寺門信徒以外のお子さまも参加できます

参加費用

1000円 (稚児衣装代、着付け費用として)

当日の集合時におつりのないよう係の者にお渡し下さい

各自ご用意していただくもの

- ・白い靴下 (ワンポイント等は大丈夫です)
- ・稚児衣装の下はTシャツ等の肌着をご着用下さい。
- ・履物はスニーカー等、歩きやすいもので結構です。
- ・引率される大人の方もジャケット等、フォーマルの服装をお願いします



注意事項

- ・願興寺敷地内に駐車場はご用意してありますが数に限りがございます。お近くにお住いのかたは徒歩または自転車等、公共交通機関でお越し下さい。
- ・詳細につきましては、申し込み受付をされた方に追ってご連絡をさせていただきます。

jihizan-gankouji@m2.nct9.ne.jp

申し込み期限 令和6年3月末日まで 参加定員に達し次第受付終了です。ご了承ください。



編集後記

昨年は例年より葬儀がとても多い年でした。中にはこれまでお世話になった檀家さんが突然亡くなってしまうことが続き、私にとってはとても辛く悲しい年でもありました。蓮如上人が書かれた白骨の御文に『朝には紅顔ありて夕べには白骨となる身なり』とありますが、人の命は本当に儂いものだなあと身をもって感じさせられました。

しかし逆に、その人たちと出会ってきたからこそ、蓮如上人の白骨の御文が、今の私に響いているのだとも思います。

コロナが明けて、以前のような交流が戻ってきていますが、だからこそ一期一会の出会いが大切なのだと感じる今日この頃です。

編集委員 高橋智美

